

第2章

県連・所属団体のあゆみ

第1節 県連のあゆみ



栃木県スキー連盟80年のあゆみ

創立80周年記念誌部会 アドバイザー 根本圭造

今年平成22(2010)年は、明治44(1911)年にレルヒ少佐が日本(新潟県高田市)にスキー技術を伝えて100年の記念すべき年です。

栃木県スキー連盟も、この記念すべき年に区切りの80周年を迎えた。先輩諸氏が築き上げた県連の財産シユプール、シユプールⅡ、Ⅲを参考に栃木県スキー連盟80年のあゆみをたどる。

栃木県スキーの黎明(1915~1930)

栃木県内にスキーが伝えられたのは、伝聞によるが「日光湯元の小林愛之助は、大正4(1915)年頃スキーを担いだ大学生が湯元温泉に登って来たのを見て強い関心を抱いた」(小林資夫氏談)が最初の足跡である。同じころ、「日本スキー発達史」(山崎紫峰著・鶴見宜信校閲)は、奥日光スキー場の記述の中に「大正5、6頃、北海道からはるばるこの地方へスキーを売り込みに来た商人によって、最初のシユプールが描かれた」とある。

栃木県人によるスキーへのチャレンジは、日光・那須・塩原の人たちが草分けで、大正12年前後が幕開けと思われる。那須の五十嵐秀哉は「大正12(1923)年の冬には手作りのスキーで滑った」と語っている。ほかに那須では大高市左衛門、日光では小林愛之助、塩原では君島精一が本県スキーの先達として記載されている。早くも大正14(1925)年には、塩原八郎が原で塩原、那須、日光の3地域の人たちによるスキー競技会が開催されている。

スキー熱は平場にも伝播し、大正15(1926)年に足利山岳会(阿部通治会長)昭和2(1927)年に宇都宮スキークラブ(サニットクラブ)(加藤恭平会長)が設立されている。那須スキークラブ(人見義男会長)、日光スキークラブ(会長不詳)、塩原スキークラブ(深尾七三郎会長)も昭和3(1928)年に結成されるに至った。



子供達のスキー(昭和初期)

栃木県スキー連盟の設立と創成期(1930~1943)

レルヒ少佐が日本にスキー技術を伝えた年、明治44(1911)年に日本体育協会が設立されている。日本体育協会にスキー専部が設立されたのが大正11(1922)年で、栃木県人スキーヤーがスキー熱にうなされている時と重なる。大正14(1925)年、塩原、那須、日光



昭和初期1本杖スキー

の有志が塩原でスキー大会を開催した年、全日本スキー連盟が創設され、日本体育協会に加盟した。

栃木県内では、昭和5（1930）年5月11日に栃木県体育協会が設立されている。この栃木県体育協会の設立に呼応して、スキー関係者がスキー連盟（体育協会スキー部）創立を目指していたことは容易に想像できる。この年までに、塩原、那須、日光はもとより宇都宮、足利にスキークラブが誕生していたことは前述の

とおりで、現に県体育協会設立の2日後昭和5（1930）年5月13日に設立総会が開催され、栃木県体育協会スキー部として加盟している。全日本スキー連盟へは、昭和10（1935）年に「栃木県体育協会スキー部」の名称で加盟し、「栃木県スキー連盟」での名称変更は昭和12（1937）年となる。

昭和6（1931）年には、塩原でスキー大会が2回、那須でも1回開催され、当時の新聞でも報道されている。第1回栃木県スキー大会は昭和7（1932）年塩原で開催され、知事や町長も列席し盛大に開催されたという。以後県選手権大会として継続している。

戦前の出来事で忘れることができない出来事の一つは、昭和11（1936）年に、日光町が冬季オリンピックの開催地に立候補したことだろう。日光湯元スキー場が開設されたのが昭和7（1932）年で、わずか4年後のことであった。昭和11年の2～3月は全日本スキー連盟の日光湯元現地調査があいついでいる。残念ながら候補地は札幌となり、その冬季オリンピックも第2次世界大戦で中止となってしまった。もう一つは昭和18（1943）年に第13回明治神宮国民錬成大会兼第21回全日本スキー選手権大会を成功裏に日光湯元で開催したことであろう。明治神宮大会は戦局の悪化で戦前の大会としてはこの日光大会が最後となってしまった。

このようなビックイベントを開催できたのは、昭和13（1938）年に鶴見亘信が日光町長に就任したこと、昭和14（1939）年に千家哲麿が栃木県庁に赴任したことであろう。鶴見はレルヒ少佐がスキー技術を日本に伝えたときに同行した人物で、日光町長当時は全日本スキー連盟の監事を務めていた。千家も全日本スキー連盟技術員として活躍中で、昭和14年には「一般スキー術要項」を発刊している。鶴見は昭和16（1941）年に逝去されたが、このお二人の功績は大なるものがある。もうひとつ紹介しておかなければいけないのは、昭和14年度に神山保治、昭和16年度に五十嵐弘が指導員に合格し、本県基礎スキーの足がかりとなった。

しかし世の中は戦時色一色となり、スキーの歴史は中断する。



明治神宮大会も軍事色が強かった

戦後から50周年へのあゆみ（1945～1980）

戦後スキー界は、国体での活躍で復活した。栃木県スキー連盟の体制が整うのは、昭和26（1951）年（会長南間栄、専務理事千家哲麿）まで待たなければならなかった。しかし、昭和23（1948）年第3回国体（野沢）から復活したスキー競技で、神山保治（足尾）がいきなり2位入賞した。以後第4回国体（札幌）では小林徳三郎（那須）が4位入賞、第5回国体（米沢）では菅原和男（塩原）大島芳男（塩原）小笠原米蔵（日光）高野栄（宇都宮）がリレーで4位入賞、昭和26（1951）年第6回国体（高田）では手塚清（日光）が7位入賞を果たしている。この後国体の入賞は途切れ途切れとなり、一時的な活躍にとどまってしまった。次の上位入賞は、昭和51（1976）年の第31回国体（大山）で、薄井利雄（鶏頂山）2位、菊池裕子（日光）の3位入賞となる。

基礎スキーに目を転じると、戦後初の指導員検定会が昭和22（1947）年に復活し、県連では昭和25年度君島文夫が戦後初の合格者となった。以後昭和55（1980）年までに95人の指導員が誕生し、いずれの指導員も県連発展の基礎を築き続けた名前が連なっている。昭和32（1957）年には準指導員制度が発足し、第1回準指導員検定会が日光湯元で開催され、針生泰明以下そうそうたるメンバー16人が合格している。また、全日本デモンストレーター選考会にも選手を派遣し、神山祐一、佐野正明の2名が全日本デモンストレーターに認定されたことは忘れてはならない。

この時期は、県内スキー場の整備が大きく進んだ時でもあった。昭和30（1955）年那須十石平スキー場に本県初のスキーリフトが建設（那須岳スキー場の開設時に閉鎖）されると、翌年に日光湯元スキー場第1ゲレンデにスキーリフトが設置された。昭和36（1951）年には鶏頂山スキー場、那須岳スキー場が開設された。昭和37（1952）年には塩原新湯前黒スキー場にリフトが架設され、昭和40（1965）年には日光霧降高原スキー場がリフト4基で開業した。さらに昭和43年湯西川スキー場にリフトが架設され、昭和45（1970）年に鶏頂高原見晴らしスキー場がオープンし、県内スキー場は年々充実した。しかし、昭和53（1978）年塩原前黒スキー場が雪不足で閉鎖となり、全日本級のゲレンデがないことが、本県スキー競技力向上の足枷にもなっていた。



準指導員検定会（那須岳スキー場）

60周年へのあゆみ（1981～1990）

県内のスキー場開設は、好景気にも支えられて続く。昭和62（1987）年12月にハンターマウンテンスキーボウル塩原がオープンし、平成元（1989）年12月にメープルヒルスキー場がオープンした。また、那須でも大規模なスキー場開設計画が進行中となっている。

この10年は、残念ながら競技での成績はあまり良くなかった。昭和60（1985）年の第40

回国体（片品）で、塩生久恵（鶏頂山）がクロスカンントリーで10位、平成元（1989）年の第44回国体（旭川）で、桑久保敦子（宇都宮）が女子2部大回転で7位入賞を果たした。

基礎スキーでは、昭和57（1982）年の第3回全日本基礎スキー選手権（八峰尾根）で柴田強（宇都宮）が16位入賞、同年のデモ選で阿久津順夫（宇都宮）が21位、認定1歩前に迫った。



片品国体の塩生選手

70周年へのあゆみ（1991～2000）

県内スキー場の整備は引き続き。平成5（1993）年には日光菖蒲が浜スキー場がオープンし、平成7（1995）年にマウントジーンズスキー場がオープンした。県連は平成4（1992）年に会員登録2769名の最高を記録した。そしてこの年がバブル景気の最後となり、以後景気が長く低迷することになる。

競技では、平成11（1999）年の第54回国体（小樽）で、白河英隆（宇都宮）が7位入賞、続く平成12（2000）年の第55回国体（大仙）でも9位と気を吐いた。

全日本スキー連盟は、平成9（1997）年に第1期スノーボード指導員検定会を実施した。県連からは第1会場（朝里川）で小山田正文（那須）、佐久間昭人（那須）、第2会場（よませ）で吉原浩之（今市）、篠崎孝（宇都宮）が合格した。平成14（2002）年の国体からはスノーボード種目の開催が決定しているだけに力も入る。

また、第1回エーデルカップ モーグルコンテスト in 栃木大会が開催され、多くのモグラが集結した。冬季スポーツはスキーオンリーの世界ではなくなり、県連は、まさにスノースポーツへの対応を迫られている。



小樽国体 白河選手

80周年へのあゆみ（2001～2010）

バブルが崩壊し景気が低迷して、人々は生活にも心にもゆとりがなくなり、混迷の時を迎えた。この10年で、オープンしたばかりのいくつかのスキー場や、中堅や老舗のスキー場も閉鎖に追い込まれてしまった。

しかし、スキー場では、スノースポーツの多様性が開花している。スキーでは足助未央（ハンターマウンテン）が活躍し、マスターズが元気になり、ボードは全日本級が輩出し、フリースタイルではジュニアオリンピックを開催できるまで成長している。残念なことに、クロスカンントリー選手が極端に減少している。

まずは足助未央の競技、基礎両面での活躍を紹介する。平成18（2006）年の第61回国体（尾瀬岩鞍）で3位に入賞し、翌平成19（2007）年の田沢湖国体、平成20（2008）年の野沢温泉国体では2年連続7位入賞を果たした。3年連続入賞は県連80年の歴史上の快挙となった。加えて、平成19年の全日本スキー技術選手権大会で9位入賞も果たし、快挙に自ら花を添えた。

また、針生優希（那須）は、今季SAJデモンストレーターに認定されたのも快挙であり、今後もおおいに期待できる。

次のキーワードは「マスターズ」。まず、全日本マスターズ大会で次々と優勝者が出ている。平成13（2001）年の全日本マスターズ池の平大会で鶴見宜典（宇都宮）70代優勝、平成15（2003）年の全日本マスターズ猪苗代大会で相沢かおる（小山）、早川静雄（宇都宮）がクロスカンントリーで優勝、平成17（2005）年の全日本マスターズ小樽大会で鶴見宜典（宇都宮）75代優勝、さらに平成22（2010）年の全日本マスターズ南魚沼大会で星伸也（那須塩原）がクロスカンントリーで優勝を果たした。その他上位入賞者多数となった。教育本部も、平成15（2003）年に第1回マスターズスキーコンテスト（第6回からはオープンマスターズスキー技術選手権大会）を開催し56名の参加を得た。平成22（2010）年の第8回大会では122名の参加を得て盛況である。

次はスノーボードの活躍。平成21（2009）年の全日本スノーボード技術選手権大会で竹末智宏（今市）が7位入賞を果たし、翌年平成22年の第7回全日本スノーボード技術選手権大会でも7位入賞と2年連続の入賞の快挙を成し遂げている。平成23年へと大いに期待できるのは痛快である。スノーボードの指導員も年々充実している。平成15（2003）年には第1回準指導員検定会を実施し、埼玉、群馬からの受検者もあり、16名が合格した。さらに平成16（2004）年には第1回スノーボード技術選手権大会を開催し、35名が参加した。初代チャンピオンは、男子鈴木満治（宇都宮）女子君島つぎみ（栃木県連）に輝いた。

平成22（2010）年、JOCジュニアオリンピックカップ 第10回全国スキージュニア競技会（兼）2010全日本ジュニアスキー選手権大会フリースタイル競技（種目モーグル）が開催された。これは2000年の権威も何もない「草大会」モーグルコンテストから始まり、平成14（2002）年の第1回SAJB級公認エーデルワイスモーグル大会にステップアップし、165名もの参加を得て開催した。その後着実に大会を開催し、大会運営能力を確実に向上させた競技本部フリースタイル部の努力の成果ともいえよう。

以前の県連の70年は、国体の報告をすればほぼ歴史を伝えられたが、この10年は明らかにチェックポイントが増えている。まさに県連がスノースポーツの多様性に柔軟に対応してきた結果と考えられる。県連の歴史80年であるが、柔軟性をもっている県連はまだまだ若い。次の90年、100年に向かっていくエネルギーは万全である。

（文責 総務副本部長 千本木武則）



栃木県スキー連盟年表 (平成13年～平成22年)

総務副本部長 千本木 武 則

| 年 | 栃木県スキー連盟 | 日本 | 各クラブ |
|-----------------|--|--|--|
| 平成13年 (2001) | ホームページ開設 全日本マスターズ大会 鶴見宜典選手 (宇都宮)優勝 第1回スノーボード認定指導員検定会 開催 | ジュニアテスト改訂 | 新会長就任 那須スキークラブ 今井 秀吉 宇都宮スキー協会 綱川千夫 東武スキークラブ 宮原 弘 氏家スキークラブ 阿久津正美 芳賀スキークラブ 町井 幸衛 |
| 平成14年 (2002) | 第1回SAJB級公認エーデルワイスモー グル大会開催 | ソルトレーク冬季オリンピック 里谷多英モーグル3位入賞 生涯スキーリーダー制度発足 | 新会長就任 ハンターマウンテンズスキークラブ 前田 明也 野木スキー協会 三品 和男 高体連スキー専門部 人見 孝史 |
| 平成15年 (2003) | 高野孝夫理事長就任 第1回スノーボード準指導員検定会開催 スキーバフメンバーズ(中島一実会長)新 規加盟 全日本マスターズ大会相沢かおる選手 (小山)早川静雄選手(宇都宮)優勝 第1回マスターズスキーテクニカルコン テスト開催 | 「1月12日スキーの日」制定 レークブラッドワールドカップ 上村愛子選手初優勝 | 新会長就任 足利スキー協会 栗原 香三 小山市スキー協会 塩田 宗克 ハンターマウンテンズスキークラブ 馬場 勝久 |
| 平成16年 (2004) | 第1回スノーボード技術選手権大会開催 | 伊藤義郎会長就任 スノーボード、ハーフパイプ 山岡聡子選手初優勝 | 新会長就任 矢板スキー協会 高塩 治郎 高体連スキー専門部 福田 寛 |
| 平成17年 (2005) | 全日本マスターズ大会 鶴見宜典選手 (宇都宮)優勝 野木スキークラブ退会 塩谷スキークラブ退会 | 2/15 SAJ創設80周年 スノーボード、ハーフパイプ 成田夢露選手総合優勝 | 新会長就任 日光スキークラブ 後藤 昌弘 足利スキー協会 笠原 弘行 高体連スキー専門部 濱田 安亮 |
| 平成18年 (2006) | 連盟創立75周年記念祝賀会開催 那須塩原スノースポーツクラブ(榎本建 司会長)新規加盟 第61回国体(群馬尾瀬岩鞍)足助未央選 手(ハンター)3位入賞 足尾スキークラブ退会 | トリノ冬季オリンピック スラローム皆川賢太郎選手 4位入賞 | 新会長就任 栗山村スキー協会 高城 豊 大田原スキークラブ 市川三喜雄 高体連スキー専門部 山形 昭夫 |
| 平成19年 (2007) | 第62回国体(秋田田沢湖)足助未央選手 (ハンター)7位入賞 全日本スキー技術選手権大会 足助未 央選手(ハンター)9位入賞 塩原町体育協会スキー部退会 | アジア初ノルディックスキー 世界選手権大会札幌大会開催 クロスカントリー女子スプリント 夏目円選手5位入賞 | 新会長就任 那須スキークラブ 長瀬 恒男 宇都宮スキー協会 長谷川好勇 小山市スキー協会 斉藤 輝吉 栗山スキー協会 阿部 隆一 大田原スキークラブ 五十嵐 透 ハンターマウンテンズスキークラブ 相良 明夫 |
| 平成20年 (2008) | 第63回国体(長野野沢温泉)足助未央選 手(ハンター)7位入賞 | ワールドカップモーグル上村 愛子選手総合優勝 ワールドカップモーグル上村 愛子選手5連勝 | 新会長就任 ハンターマウンテンズスキークラブ 前田 正史 高体連スキー専門部 大出 聡 |

第2章 県連・所属団体のあゆみ

| | | | |
|-------------------------|---|---|---|
| <p>平成21年 (2009)</p> | <p>網川千夫会長就任 石塚光男理事長就任 HOKUTO S. C(磯正嗣会長)新規加盟 第1回スプリングスキー技術選手権大会開催 第6回全日本スノーボード技術選手権大会 竹末智宏選手(今市)7位入賞</p> | <p>フリースタイルスキー世界選手権大会猪苗代大会開催 モーグル上村愛子選手2冠 公認スキーバッチテスト基準要領改訂</p> | <p>新会長就任 おおひらスキー協会 井口 保 那須塩原スノースポーツクラブ 佐藤 史彦</p> |
| <p>平成22年 (2010)</p> | <p>創立80周年記念事業実施 全日本マスターズ大会 星伸也選手(那須塩原)優勝 第7回全日本スノーボード技術選手権大会 竹末智宏選手(今市)7位入賞 JOCジュニアオリンピックカップ 第10回全国スキージュニア競技会(兼)2010全日本ジュニアスキー選手権大会フリースタイル競技(種目モーグル)開催 認定スキー指導員1期生17名認定 事務所を宇都宮市下金井町に移転</p> | <p>バンクーバー冬季オリンピック 認定スキー指導員制度スタート SAJデモンストレーターに針生優希選手選出される 10/17鈴木洋一会長就任</p> | <p>新会長就任 矢板スキー協会 小川 修市 ハンターマウンテンスキークラブ 繁田 彰雄 高体連スキー専門部 栃木 坦</p> |

第2節 所属団体のあゆみ

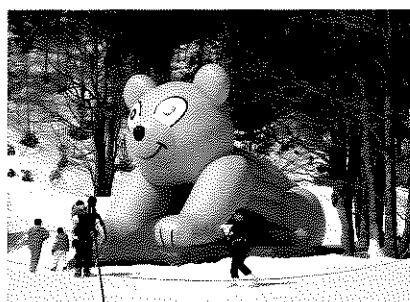


『スキー選手の育成と スキー愛好者の底辺拡大を！』を合言葉に

日光スキークラブ 会長 後藤 昌弘

SAT創立80周年おめでとうございます。

県スキー界の雄として歴代の会長、数多くの国体の代表選手を送り出し、傘下に霧降・菖蒲ヶ浜・湯元と3校のスキー学校を有していた当クラブも、現在は湯元スキー場をホームグラウンドに隆盛を極めています。日光湯元スキー場は昭和18年に今の全日本選手権の前身の第18回明治神宮大会が催行されたスキー場です。日光白根山(2,577m)の山懐、温泉とパウダースノーの素晴らしい環境のもとで、地元中宮祠小・中学校生のジュニアチームの選手の育成に努めています。“安全”“安心”“楽しさ”をモットーに、冬山の雪の中での遊びが好きになるように、雪好きな優秀なスクールのスタッフが地元企業と協力し、親子参加のそり競争、宝探し、また誰でも参加できるアットホームな賞品の盛り沢山なスキー・ボード大会を開催しています。人間本来の競争心の啓蒙を促し、未来の国体選手・オリンピック選手の誕生を夢見ての10年でした。



那須スキークラブの最近の10年

那須スキークラブ 会長 長瀬 恒男

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。当クラブの最近の10年について、述べさせていただきたいと思います。クラブは80年前に設立されており、以来連綿と現在に至っております。このことについては、70周年記念誌に詳しく記載されておりますので省略いたします。

現在、2つのスキー学校を運営しており、一つは昔からあります那須岳スキー場(現那須温泉ファミリースキー場)の那須スキー学校、もう一つはマウントジーンズスキーリゾート那須のマウントジーンズスキースクールです。これらの運営については、渡辺校長はじめ優秀なスタッフによって支えられておりますが、那須スキー学校は平日の受講生は殆ど無く、土、日祭日ですがマウントジーンズの学校は平日に団体が受講されるので、教師の確保に大変苦勞しているのが現状です。以前は会社等の休暇も取り安かったのですが、バブル経済がはじけ、又2年前のリーマンショックが追い打ちを掛け教師の休暇も非常に

第2章 県連・所属団体のあゆみ

難しくなっております。スキー場の入り込者数を見ますと、ファミリースキー場は平成20年度19300人で10年前と比べ若干増加しておりますが、マウントジーンズスキー場は147,800人で10年前より約33,000人減少しております。

一方、競技関係については、永年ジュニアの育成を行っておりますので、中学生、高校生までは毎年全国大会に出場しております。

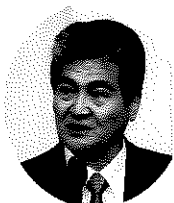
しかし、高校、大学を卒業しても今の社会状況の中、地元就職することは大変困難で、社会人としての競技スキーヤーがなかなか現れないのが現実です。

こういう中で、足助君は、国体に出場しその後基礎スキー技術選においても優秀な成績を上げております。女子においても、針生さんがここ数年非常に頑張っております。特に今年は技術選において、全国大会に出場し、決勝戦の一步手前まで進出しております。

これが後輩の目標となり、裾野が広がってくることを期待する次第です。

今の経済状況において、クラブの運営も厳しいものがありますが、会員全員が団結し、頑張ろうと思っております。

最後に県スキー連盟の今後益々の御隆盛を御祈念申し上げます。



創立80周年を迎えて 宇都宮スキー協会の現況

宇都宮スキー協会 名誉会長 長谷川 好 勇
栃木県スキー連盟創立80周年誠におめでとうございます。

本県スキー界に80年の永きにわたりその普及、発展に多大な貢献をされた歴代役員の皆様及び活動を支えた所属クラブの皆様に敬意と感謝を表する次第です。

昨今のスノースポーツを取り巻く環境は、スキー人口の減少に伴い組織の活動に予想以上の深刻な現象をもたらし、当協会も会員数減や10年前33有ったクラブが現在26に減少するなど多大な影響をもたらしている。その要因として長引く深刻な景況感に加え若い世代の意識の変化や嗜好の多様化等複数の事由により低迷をもたらしていると考えられる。その様な環境の中ではあるが、競技、基礎、ジュニア育成やスキーツアー等各種事業を着実に遂行し組織の活性化に努めてきました。

また、平成19年には創立50周年記念式典を200名を超える出席者により盛大に挙行了。今後はジュニア層や中高年層への活動支援は基より各種の活動を通して時代のニーズに合

ったスノースポーツの普及、発展に努めて行きたい。

今後とも県連発展の中心的役割を果たせる協会として誠心誠意努力して行く所存です。

栃木県スキー連盟の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。



鶏頂山スキークラブについて

鶏頂山スキークラブ 会長 山口 孝二

栃木県スキー連盟は、創立80周年を迎えられ、おめでとうございます。しかも、同じ年にバンクーバー五輪と、パラリンピックが開催され、花を添えてくれました。しかし、五輪では日本スキー競技はメダル0で残念でした。一方パラリンピックでは全種目で11個のメダルを獲得し、輝かしい成績に、私達は胸を打たれ、感動しました。でも、どちらも、この先、メダルを獲得するには、困難な課題をどうするかです。

さて、当スキークラブですが、会員はこの10年80名弱で推移しています。社会の変化によるものと思われます。クラブは執行部を核として、和気あいあいと生き生きと活動しています。

競技スキーでは、ジュニアの育成に力点をおき、優れた選手が育っており楽しみです。一般スキーでは、スクールの校長がメンバーに、分かり易く楽しく指導してくれるので技術が向上し、県の技術選でも、良い方向に行っているのが、先が楽しみです。

最後になりましたが、クラブを充実発展させるには、会員の創意工夫と、実践力が肝心ですが、県連のご指導、そして当スキー場のご理解とご支援の賜物と、有り難く思っています。





栃木スキークラブの10年

栃木スキークラブ 会長 柴 英雄

栃木スキークラブは昭和27年に創設され半世紀以上になり、この歴史の中には幾多の苦難を乗り越えてきた諸先輩の業績は偉大なもの

がありました。

昭和38年12月より当クラブの最大の行事として苗場スキースクールが開始され、栃木市近郊のスキーヤーに安全で楽しいスキー技術を提供し、参加者の好評を得て市民に親しまれ、多くのスキー愛好者を育ててきました。その結果、永年にわたりスポーツ振興に貢献した結果、数々の荣誉ある表彰を受賞することができました。

しかし、スキーヤーを取り巻く環境は、経済状況の悪化に伴い各行事への参加者は年々減少傾向で、実施計画の変更を余儀され、少くない参加者でも苗場スキースクール及び市民スキー祭を実施しております。

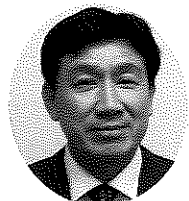
また平成13年よりシニア部を立上げまして、これは技術の追求にとどまらず人と人との出会い、そして生涯スキーをスポーツとしての広がり期待し活動しています。

今後は認定スキー指導者制度を利用して、生涯スキーの普及活動を行いたいと思います。

競技部は、競技力向上としてポール練習会等を開催し、技術向上に努めています。平成22年の第57回県南4市親善スキー大会に於て26年ぶりに団体優勝したことは、練習の成果と思う。教育部も、スキー技術向上と立派な指導者の育成を目指し、シーズンオフより体力作り又は、勉強会等を行い準指導員受検合格者を出しておりますが、県スキー技術選の決勝進出者が少ないのは残念です。

今後も、クラブ会員が一体となってスキースポーツの愛好者及び、技術向上を目指す会員を増やしていく努力をして参ります。

結びに、栃木県スキー連盟の更なるご発展をご祈念申し上げます、栃木スキークラブの10年の状況とさせて頂きます。



足利スキー協会の10年

足利スキー協会 会長 笠原 弘行

近年、私達をとりまく社会環境の変化には著しいものがあり、人々の志向や意識も大きく変化してきています。スポーツの世界でも簡単に取り組むことのできるニュースポーツが多数考案され、スポーツの多様化が進ん

でいます。さらに温暖化、また不況の影響もあって、ここ数年スキー・スノーボードを含めたスノースポーツ人口の減少には著しいものがあります。

足利市でも、10年前には14クラブありましたスキークラブが、現在では9クラブにまで減少しています。スキー協会の行事参加者数を比べてみますと、平成9年度のスキー映画会の入場者数は約650名、市民スキー選手権大会の参加者数は209名でした。平成19年度はスキー映画会の入場者数は182名、市民スキー選手権大会の参加者数は87名と約3分の1に減少しています。また平成元年に始まりました足利市スキー技術選手権大会は第20回大会をもって参加者不足のため廃止となってしまいました。

今後も、スポーツの多様化、少子高齢化等がさらに進むと思われます。20数年前のようなスキーバブルは、これからはもう望むべくもありません。先達の皆さんが残してくれたスノースポーツを次の世代に伝えていくために今できることを考え、実践していきたいと思っています。



組織固まる

東武スキークラブ 三 関 利 秋

我がスキークラブの10年は目覚ましい発展があり指導員1名、準指導員3名が誕生し、クラブ活動もシーズン5回の合宿、栃木県技術選大会やマスターズ技術選大会出場と充実ある活動をおこなっています。当クラブは技術選大会で上位を競うようなクラブではありませんが、スキースポーツを通し仲間の和を大



切に、シーズンオフにはクラブ総会、納会また自転車トレーニングと1年を通しクラブ員が集まる機会を大切にしています。しかし、ここ数年クラブ員数が減少しつつあり、この伝統あるクラブをなんとしても存続していかなければなりません。そこで昨シーズンより、クラブ員以外の東

武関係社員またその家族に対し、スキー検定会を大々的に宣伝し実施しています。若きころ滑りに自信があったスキーヤーも中高年になった今、受検しやすい条件を私たちが考え新たな気持ちで迎えれば、またゲレンデにスキーヤー



2010年 中村準指、清水指導員誕生

が帰って来てくれるような気がします。そしてこの厳しい時代を「努力を形として残せる」スポーツ、レジャーとして浸透させていく事が出来ればと思います。



鹿沼スキー協会の現状と課題

鹿沼スキー協会 会長 大津 守

栃木県スキー連盟の80周年お祝い申し上げます。

一口に80周年と言っても諸先輩の皆様の苦労も多分にあったかと思えます。現在では胸を張って県連の一員である事に誇りを持たせて頂いております。

鹿沼スキークラブからスキー協会と発展して参りましたが、最近のスキー人口の減少は全国的ではありますが鹿沼も例外では有りません。それでもバス旅行を兼ねてスキー教室を毎年開催していますが盛況に終わっており、バスの人数もオーバーする程です。子供達の参加者も多く将来スキーを楽しんでくれればと思っております。

又、鹿沼もブロック技術員も2名になり、技術選手権でも数名が上位入賞しています。若い入部希望者はあまりいませんが、その分古い仲間が子育ても終わり、又スキー場に帰って来る様になりました。資格と言うのも大事で、特に1級・2級・指導員の資格者は、スキーに愛着を持っている様です。もっと広く普及させたいと思えます。

それに伴い、行政とスキー場の協力も得てスキー場までの道路の整備、又現状からするとスキーは難しい、高い、危険のイメージが有り、これからも研究していく必要も有ると思えます。家族皆なで行くには、他のスポーツに比較して、着る物から始まりその他一切では安くないスポーツになってしまいます。もっと手軽にスキーを楽しむ事が出来る様にして、県連始め先輩スキーヤーの協力を得て普及発展させてゆければと考えています。

私を含めて大勢の仲間や知り合いも出来、スキーをやって来て良かったと心から思っております。協会でもシーズン中は元より夏季懇親会、ゴルフ、バーベキュー、年間を通じて集まっています。これもスキーのお蔭だと感謝しています。協会長としてこれから鹿沼のスキーヤーを、どうゆう方向でどう発展させて行くかが大きな課題ですが、県連の皆様のを借りながら末長くスキーを楽しんで行きたいと思えます。

最後に本協会を育ててくれた方々と、協力して頂いた関係各位に感謝しこれからの栃木県スキー連盟の益々の発展を祈念し80周年のお祝いの言葉と致します。



小山市スキー協会この10年の出来事から

小山市スキー協会 会長 斉藤 輝 吉
栃木県スキー連盟創立80周年、誠におめでとうございます。

本スキー協会におきましては、この10年間に大きな出来事が2件ありました。

まず、平成14年には小山市スキー界の草分け的存在であり、協会設立当初からの会員であり、昭和50年から当協会長でありました坪野谷忠平氏が会長を勇退されました。

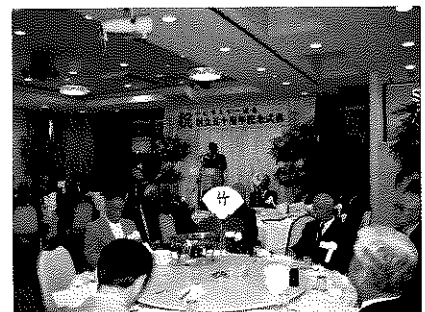
本市スキーの普及、発展に協会会長として四半世紀以上の27年の長きにわたりご尽力を賜り、その間県スキー選手権大会での総合優勝や県南四市スキー大会での3連覇など、基礎スキーの普及と競技力の向上発展にも強いリーダーシップを発揮され、また当協会の発展のみでなく県南四市スキー界、県スキー連盟の発展にも大きく貢献されましたことは衆知の事実であり大きな功績であります。

多年にわたるご労苦と偉大な功績に対する退任慰労会には、坪野谷会長を影で支えられて参りました奥様にもご臨席を賜り、また、ご来賓として当時の県連会長荒井文男様を始め多くのスキー関係者のご列席を賜り盛大に開催できましたことは、主催者の一人として喜びに堪えません。

二つ目は、昨年当協会が創立50周年を迎えました。この節目の年にあたり競技においては40回目を迎えた小山市民スキー大会を記念事業大会として、これまで持ち回りで39年間使用してきた団体戦用のカップや個人戦のトロフィーを新調すると共に、協会50年の歩みを「白銀と共に」と題した記念誌も多くの皆様のご支援により発刊できました。

そして、11月15日の記念式典には大変ご多忙中の中、県連会長綱川千夫様、前県連会長荒井文男様を初め県連及び県南スキー界から多くの代表の皆様のご臨席を賜り、かつこれまで本協会の発展に尽力された多くの先輩の皆様のご列席も賜り盛大に開催できましたことに改めて記念式典に関係されました皆様にご心から感謝と御礼を申し上げます。

この50周年を契機に、低迷するスノースポーツ愛好者の拡大に向けて協会を挙げて取り組み、本協会の更なる発展と県スキー連盟の発展に努力する所存であります。





佐野スキー協会の10年

佐野スキー協会 理事長 落合久雄

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。

この10年はスノースポーツ環境の変化により協会としての取組みの難しさと同時に、新入会員が入らず、年々平均年齢だけが上がる高齢化協会に変わりつつあります。

行事にも変化が起きており、協会主催のバッヂテストも個性の多様化・若者のボーダー化等により(?)受検者が減少し、中止を余儀なくされ真に寂しい限りです。一方でスキーヤーを指導する体制は着実に進み、この10年で準指導員の資格取得者は10名と当協会としては嬉しい限りですが、残念なことに教える相手がいないという結果になり、今は市主催の「わんぱくスキー」で将来に期待をかけ子供たちを一生懸命教えています。

また、以前から協会の資金源となっています「スキー映画会」は「すき・すき・スノー」と呼称を変え、対象相手を広げ実施内容も変更して今でも頑張っています。売上げは10年前には及びませんが千枚弱は捌けています。今後もいろいろ試しながら継続したいです。

この10年、当協会も基礎に競技に力強く歩んで来ました。特に競技では長島陽子・秀斗兄弟を先頭に学生を中心に活躍が目立った10年と思っています。

協会もこれからの10年に期待しながら、県連と共に歩んで行きたいと考えています。



今市スキー協会の10年

今市スキー協会 事務局 吉原浩之

栃木県スキー連盟創立80周年、まことにおめでとうございます。

協会員一同心よりお祝い申し上げます。

この10年、雪の上でのスポーツは多様化を続け、スキー場は単にスキーヤーだけが楽しむ場所では無くなりました。現在ゲレンデでは、様々なスノースポーツ愛好者が共存をしています。当協会では、既存のスキークラブで活動していたスノーボード愛好者会員が年々増加し、スノーボード愛好者の会員のみクラブが誕生致しました。クラブ員の中には、スノーボード技術選手権上位入賞者も所属しており、全国大会での上位入賞が毎年期待されています。当協会にとって、活発な活動をするクラブ・クラブ員が増えることは大変喜ばしいことであるし、明るい話題の1つであります。スキークラブも、この10年で新

たに2つのクラブが加盟し活発な活動をしております。また、少人数ではありますが新たな指導資格者が誕生していることも、大いに期待するところです。現在、スキー・スノーボード共に刺激を受けながら活動を続けておりますが、これから益々の活躍を期待するところです。



矢板スキー協会の10年

矢板スキー協会 会長 小川 修 市

栃木県スキー連盟創立80周年、心からお慶び申し上げます。

我が、矢板スキー協会につきましても、現在49年目を迎え、まもなく創立50周年を迎えようとしております。これもひとえに県連及び関係各位の皆様にご多大なるご協力を賜りましたこと、誌面をお借りしまして心より感謝申し上げます。

さて、矢板スキー協会の10年間を振り返りますと、競技、基礎ともに充実し、国民体育大会や北関東技術選手権への選手の輩出、有資格指導者の増加とスキーに対する熱意の向上、技術力の強化が見られる大変有意義な10年間と感じられました。

また、スキー人口の減少は当協会においても、この10年間は深刻な状況となっております。底辺拡大を図るために以前から実施していた日帰りまたは1泊2日の短期的なスキー教室から、10年後、20年後を見据えたジュニア層の育成に照準をあわせ、学校週5日制が始まりました2002年より、1月下旬から3月中旬までの長期的なジュニアスキー教室に変更しました。スキー人口の底辺拡大はもちろんのこと、青少年健全育成、スキー離れしている有資格指導者、ジュニア層の保護者が“スキーは楽しい!”と感じてもらう“キッカケ”づくりも含め、現在まで実施しております。



氏家スキークラブの10年

氏家スキークラブ 船生 剛 正

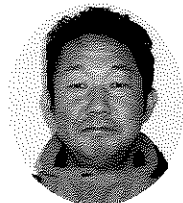
栃木県スキー連盟創立80年おめでとうございます。

氏家スキークラブの10年は、栃木県スキー連盟の登録のためにありました。毎年県連負担金・SAJ登録料・国体競技役員・スキー年鑑など県連に納付する約10万円の資金を集めるために、たいへんな苦勞をしました。クラブの運営に実質関わ

っているものは数人しかいないので、毎年これだけの金額を捻出するには、たいへんです。

ここ数年スキー環境の変化・経済の不況などにより若い人のクラブ加入は、見込めません。また、クラブの会費として納付して下さるクラブ員の方も高齢化しているので、これからも毎年これだけの金額を集めるのは困難だと思われます。本来クラブ会費はクラブの活動に当てられるべきものを県連に納付しているのです。クラブ活動の空洞化になっています。

しかし、会員には県スキー技術選手権、マスターズ技術選手権に参加し、優秀な成績を収める方やスキー技術指導でも優れた方も数人おります。今後、それらの人たちにクラブ運営に参加していただいてクラブの存続・活性化につなげていければと思っております。



芳賀スキー協会最近の10年

芳賀スキー協会 中野孝弘

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。最近10年の芳賀スキー協会は、スキー愛好者が集まって、技術志向の強い協会として活動してまいりました。栃木県技術選手権を目標に練習を重ね、北関東技術選手権出場や県デモンストレーター認定を果たす会員、ブロック技術員に任命される会員もいました。

近年、会員にも転勤や結婚、子育てといった影響でスキー活動を休止する会員も増えていきます。過去には複数のクラブがありましたが、今では、芳賀スキークラブ一つのみの協会になっています。それでも協会制をとり続けているのは、芳賀郡で新しいスキークラブが誕生したとき、栃木県スキー連盟の窓口になりたい、一緒にスキーに関わっていきたいという思いがあるからです。

現在、協会には約30名の会員がおり、40歳～60歳の会員が中心となり活動をしています。最近では、家族ぐるみで行事に参加する会員も増えてきました。時代の移り変わりとともに、協会の活動も様変わりしてきました。しかし、スキーの魅力は変わることはありません。今後も「スキーは楽しく」をモットーに、活動していきたいと思えます。





おおひらスキー協会

おおひらスキー協会 会長 井口 保

当協会は昨年創立15周年を迎えました。従来より栃木スキークラブの中で活動していた町の同好者と、日立栃木スキー部が一つになり、平成9年に連盟に加盟し現在に経っています。初代上田会長は現在顧問に退かれ、2代目会長として私が平成20年から引継ぎ25名の会員と共に活動しています。恒例行事として「スキー研修会」、町行政とタイアップした1泊2日「スキースクール」、日帰り「親子スキー祭」の三本柱で活動しています。近年スキー人口の減少が呼ばれている中で、やはりボードの参加者が増加傾向にあり、今後ボードの指導者育成が重要な課題になります。一般参加者には懇切丁寧な指導と共に、技術向上の目的でもある「級別テスト」の実施を進め、低年齢層への普及活動を主として行っています。又、ここ3年はこれを「ジュニアテスト」にも枠を広げてスキーへの関心度を拡大しています。しかし我々指導者の高令化による指導者不足の問題もでてきています。若手指導體制の切替えは、これからの協会存続の不可決の条件です。昨年は当協会でも8年振りに準指に金谷が合格・全日本技選の川口を中心とした新指導体制作りを期待するところ大であります。又、今年は栃木市への合併により各クラブ間の交流を密にし組織的な活動方針を話し合い一体となったスノースポーツの普及に努めていきたいとおもいます。



黒磯スキー協会の現状

黒磯スキー協会 会長 高根沢 春彦

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。

70周年がつい先日のように思い起こされます。先人たちの努力により昭和29年に黒磯スキークラブが設立され、53年に協会（8クラブ）制をとり、平成17年の市町村合併によりその年の10月に塩原スキー部、那須塩原スノースキークラブ、黒磯スキー協会の3クラブにより那須塩原スキー連盟となり県連加盟は従来どおり単独クラブ加盟となっております。

協会員は平成10年には180名弱でしたが現在では120名弱と減少し、有資格者は55名と約15名増加しております。

行事については、ジュニアスキー教室2回、スキー、ボード教室1回、市民スキー大会は連盟にて実施しております。技選においては、児山選手の影響もあり上位入賞者が多くなりました。アルペンは中学生が活躍しており先が楽しみです。またマスターズ年代の方々がマスターズ技選、アルペン大会と熱く戦っております。いつまでも健康で参加でき

るように頑張ってください。

協会の今後についても役員有志の方々にジュニアチームの立上げに尽力されております。ぜひ成功させ活力のある協会にさせたいと思っております。



大田原スキークラブのあゆみ

大田原スキークラブ 会長 五十嵐 透

栃木県スキー連盟 80周年おめでとうございます。大田原スキークラブは設立が昭和28年で、昭和33年より栃木県スキー連盟に加盟し、設立より57年となりました。

昭和48年からは西那須野、黒磯とともに県北スキー協会として加盟し、昭和53年に黒磯が黒磯スキークラブとして独立し、昭和61年に県北スキー協会より大田原スキークラブに名称変更し、大田原・西那須野で活動、平成17年より西那須野と分離し大田原単独で加盟し現在に至ります。

現在までの大田原スキークラブの発展の基礎は、県北という立地で学校体育の一つとしてスキーを経験し、それをきっかけにスキーを楽しむ若者が育って来たことにより、スキー指導者が増えてきました。昭和55年から20年間で指導員が7名、準指導員が24名合格しレベル向上・拡大してきました。ここ10年間でも9名の準指導員が誕生しています。また本年から実施の認定指導員も5名公認されました。

大田原スキークラブの底辺拡大を計るためのジュニア育成は、昭和49年からの子供スキー教室に始まります。クラブ員の子供たちがスキーを始める時期となり、大人と一緒に連れて行く様になり人数も増え、友達も一緒にと広がり行きました。その後小学校でのスキー教室が行われるようになり、昭和59年より体協行事として親子スキー教室を行うようになり、現在まで毎年継続されています。

更に平成4年よりジュニア会員を募り、1シーズン7回のスキー教室を県内・福島県のスキー場で実施し、シーズン最終行事にジュニアテストを行ってきました。ジュニアテストは当初より西那須野と合同で行っていました。最初のジュニアテストは種目も多くゲレシュブ、八の字滑走、ポールと準備と安全に気を配る状況でした。子供の技能・体力が問われるテストでした。子供の総数が西那須野と合計で160名を超えるようになり、スタッフも充実し折しも平成17年より大田原と西那須野の分離となり、ジュニアテストも大田原だけで行う事となりました。

競技志向のジュニアも増え、高畑スキー場にてポール練習を行い競技スキーのジュニアの育成・強化も進めてきました。県の強化選手に認定される児童も出てきて、ここ数年では全国大会まで出場する選手を輩出できるようになりました。

全国的にスキー人口が減少傾向にあるなか、大田原スキークラブも同様な問題に直面しています。子供たちにスキーの楽しさを教えていくことによって、若い人達を育てスキークラブが存続出来るよう、また県連へ微力ながらも貢献出来るようクラブ員一同で努力していきたいと思ひます。



ハンターマウンテンスキークラブのあゆみ

ハンターマウンテンスキークラブ 大塚 昌代
栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。

また、記念誌「シユプールⅣ」が刊行されますことを重ねてお祝い申し上げます。

ハンターマウンテンスキークラブは、ハンターマウンテン塩原とほぼ同じ時期に設立しました。従業員の福利厚生を目的とした研修をはじめ、県連主催行事への協力、公認大会への参加、公認資格の取得、公認スキースクールの運営が主な活動内容になります。

設立当初は数名だったクラブ員も今では26名になり、クラブ員の過半数が公認資格保有者になりました。また、国民体育大会への出場・入賞、全日本技術選手権大会の出場・入賞など、この10年間で技術水準の向上に努めることができました。

今後の目標としましては、クラブ員のより一層の技術の向上に努めること、Jr選手の育成（ハンターJrの再現）に力を入れていきたいと思っております。

まだまだ歴史の浅いクラブです。今まで同様、当クラブへのご指導ご支援をお願い致します。

最後になりましたが、栃木県スキー連盟の今後益々のご発展を祈念し、お祝いの挨拶とさせていただきます。



上河内スキークラブ次の10年

上河内スキークラブ 四谷 建二

1999年、私たちのクラブ「上河内スキークラブ（当時は上河内町スキークラブ）」は、約20名の会員で産声を上げ、クラブ結成10年を迎えた。近年のスキー人口の減少で、スキー業界全体の減退が危ぶまれている中、年中無休での技術向上を目標とし、会長、理事長を始めとした会員の努力により、会員数が31名と僅かながらも増え、スキー界の発展に寄与できた10年であった。

しかしながら、2010年度の栃木県スキー技術選の出場者でみると、3名で全員が40代と

選手の年齢層上昇はいなめず、決して油断はできない状況になっている。

次の10年はどうなっていくのだろうか……。今シーズンのクラブの活動を通じて、明るい未来の予感がある。ジュニア世代の成長である。中学生を始めとする子供たちが元気に滑りまわっているではないか。

技術向上を目指し、上手くなる楽しさを伝え続けていけば、私たちクラブ、スキー界の次の10年も楽しみになっていくのではないだろうか！



スキーバフメンバーズ 創立25年

スキーバフメンバーズ 事務局 坂本 忠仁

スキーバフメンバーズは、昭和60年7月に栃木駅前のスポーツ店の馴染み客を中心に誕生した。初代会長は、相田融氏。中島巖、加藤周次氏を経て、現在は4代目の中高一実会長である。今年、創立25年を迎える。事務局は、今も坂本のままである。当初、栃木スキー協会にお世話になっていたが、協会内の各クラブが夫々に県連加盟をして行き、当クラブも8年前に加盟団体の一員となった。初めて自分達のクラブ名が入ったSAJの会員証を手にしたときは、何ともいえない喜びがあった。

当クラブは、長野県白馬村に大変お世話になっている。この25年間、正月は岩岳を中心としたスキー場での合宿が恒例行事である。また、朝一番に八方尾根のリーゼンコースをノンストップで滑るのは、何ともいえない爽快感と達成感がある。バブルの頃は、100人近い参加者があったが、近年は、20名前後となっている。創立当初は、車で片道8時間かかり、正月にボールの練習などもできず、雪も少なく、リフト代は年々上がり、ゲレンデ内は、スキーヤーで溢れていた。今は、高速道路もでき、ボールの練習もでき、リフト代も安くなり、スキー人口も減り、思いっきり滑れる。まさに隔世の感がある。

この25年間、定宿のロッジ・ピステの横沢氏には、いろいろな面でお世話になっている。また、これまで渡辺氏を始め多くのインストラクターの方に指導をしていただき、この場を借りて、お礼を申し上げたい。長野オリンピック（平成10年開催）には、平成7年に開催の一助として5万円の寄付ができたことを、クラブの誇りと思っている。

ここ10年近く、初代会長子息の相田氏を中心に八方でお世話になっている松沢氏らにバックカントリーや



平成22年3月白馬八方尾根
ガラガラ沢バックカントリー

テレマークを取り入れたスキーを学び、白馬・立山の山々へと活動の幅を広げている。その魅力は、数時間をかけ苦しい雪山登山とその後に味わえる大自然の風景と斜面に果敢に挑み、闘っているという満足感が得られることにあると思う。

少人数のクラブなので、毎年、技術選手権、国体予選大会等には、数名しかエントリーできず、役員派遣等も毎年薄氷を踏む思いであるが、今後もできうる限り行事に参加し、栃木県スキー連盟の一員としてスキー活動の発展に寄与して行きたいと思っている。

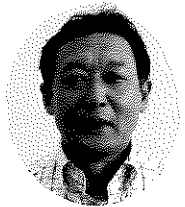


県連加盟を果たした那須塩原スノースポーツクラブ

那須塩原スノースポーツクラブ 会長 佐藤 史彦

我がクラブの前身は西那須野スキークラブであり、昭和39年町内在住の有資格者が立ち上がり、地区内を取りまとめ長沢氏が初代の会長としてスタートした。当初、隣接の大田原スキークラブとの活動で基盤を築いた。その後、会長は針生・薄井・榎本氏と代わり、クラブ結成40余年にして2005年（榎本会長時）、長年の願いが叶い県連加盟の運びとなった。現在の活動の特徴は、一つに県下に誇れる「スキースポーツ少年団」の存在である。クラブと少年団両役員が密に連携し、ジュニア育成が活発に行われている。二つに、県連加盟の翌年、那須塩原市誕生に伴い黒磯スキー協会と「市スキー連盟」を創り活動していること。その事業に、2本滑走・記録表の配布など子供達を優遇した「市民スキー大会」と、実施して2年、未だ完全に軌道に乗っているとはいえ難いが先が楽しみな事業である市内小中学校のスキー教室講師養成を目的とした講習会を持つ。

これからどう活動を続けていくか。環境を含めた社会状況の変化する中困難は多いが、今日まで先輩達が築いてくれたものを基に、約50名の会員、クラブ在籍のブロック技術員・理事・委員長共々一層力を出し合い、前向にシュプールを描いていきたいと思う。



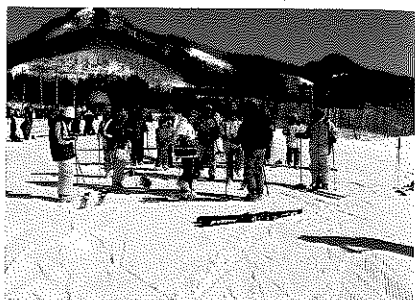
はじめまして

HOKUTO S.C 会長 磯 正嗣

HOKUTO S.Cという新しいクラブです。我がクラブは登録して2年目、総合型地域スポーツクラブとして、今春正式に設立した団体です。「できる人ができる時に無理なく楽しく」をモットーに地域社会のコミュニティーづくりと健康で明るく、豊かな生活の実現に資する事を目的としています。スキー会員は少ない人数ですが、これからも地域を中心としたスノースポーツの普及発展に寄与して行

きたいと思いますので、皆様宜しく願いいたします。

さて、クラブの歴史はこれから一歩ずつ刻んで行くのですが、現状の活動を紹介させていただきます。スポーツ6種、カルチャー1種各教室として実施し、活動拠点は高根沢町施設が中心です。スノースポーツは年4回程度、バスツアーを実施。初心者が多いのですが、自然や雪と関わる事の大切さを自ら享受できるよう努力しています。他には少林寺拳法、女子ソフトボール、バレーボール、ヒップホップ、カヌー、スポーツ交流大会、ゴスペル等多様なニーズに対応し、より良いスポーツ文化を定着させる環境づくりを行なっています。



高体連スキー専門部10年の歩み

高体連スキー専門部 上野 忍

栃木県スキー連盟創立80周年、真におめでとうございます。また、「創立80周年記念誌」が発刊されますことをお祝い申し上げます。

高体連スキー専門部の10年間の歴史は、栃木県スキー連盟関係各位をはじめとする、多くの方々のご支援によってあるものと感謝致します。高体連スキー専門部は、平成19年度に前委員長・神山弘先生より上野忍（作新学院高）が委員長を引き継ぎ、現在13校の加盟校を有し、日ごろより競技選手の強化育成にあたっています。

この間の主だった成績には、平成12年度に新潟県赤倉でおこなわれたインターハイ男子回転において三井田雄太（佐野日大高2年）が15位と大健闘した。平成13年度・同青森県大鱈大会では、男子10kmクラシカルで大塚裕太（那須拓陽高3年）が24位と健闘しました。女子では、藤生佳乃が平成15年度・北海道旭川市にて開催された同大会において女子大回転で28位の好成績を収めました。

今後は、この記念すべき年を節目として、栃木県スキー連盟の益々の発展と関係各位の更なるご活躍を祈念するとともに、高体連スキー専門部へのご支援をお願い致します。



新規加盟の喜びと今後の抱負

足利スノーボードクラブ 会長 萩原 秀 侑

はじめに、スキー連盟創立80周年おめでとうございます。

この記念すべき年に加盟させて頂きました事を、大変嬉しく思います。また、加盟にあたり快く承認して下さいました栃木県スキー連盟、及び各所属団体の皆様に大変感謝しております。

我がクラブの発足は、今から8年前に地元のスノーボードが好きな先輩、後輩達が集結して結成したのが始まりです。その間、お互いが良き仲間でありライバルでもあり、仲間同士が刺激し合いながらレベルアップして来ました。お陰様で現在では指導員、準指導員も増え、また全日本スノーボード技術選手権大会にも出場する選手が増えて参りました。

現在、スノーボード人口が増えつつあるとは云え、スキーに比べてまだまだ指導者が足りないと思います。我々クラブ員は今後活躍するであろうジュニアや若手の育成、それらの指導にあたる指導者の育成にも力を注ぎながら、自分達のレベルアップも共に図って参りたいと思っています。

まだまだ駆け出しの小さなクラブではございますが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を頂きながら、こつこつと精進して参りたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。



所属団体10年の記録

総務本部理事 小原澤 善 勝

| 2000年 | 2001年 | 2002年 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 日光 | 日光 | 日光 | 日光 | 日光 | 日光 | 日光 | 日光 | 日光 | 日光 | 日光 |
| 那須 | 那須 | 那須 | 那須 | 那須 | 那須 | 那須 | 那須 | 那須 | 那須 | 那須 |
| 塩原 | 塩原 | 塩原 | 塩原 | 塩原 | 塩原 | 塩原 | | | | |
| 足尾 | 足尾 | 足尾 | 足尾 | 足尾 | 足尾 | | | | | |
| 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 | 宇都宮 |
| 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 | 鶏頂山 |
| 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 | 栃木 |
| 足利 | 足利 | 足利 | 足利 | 足利 | 足利 | 足利 | 足利 | 足利 | 足利 | 足利 |
| 東武 | 東武 | 東武 | 東武 | 東武 | 東武 | 東武 | 東武 | 東武 | 東武 | 東武 |
| 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 | 鹿沼 |
| 小山 | 小山 | 小山 | 小山 | 小山 | 小山 | 小山 | 小山 | 小山 | 小山 | 小山 |
| 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 | 佐野 |
| 今市 | 今市 | 今市 | 今市 | 今市 | 今市 | 今市 | 今市 | 今市 | 今市 | 今市 |
| 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 | 矢板 |
| 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 | 栗山 |
| 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 | 氏家 |
| 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 | 芳賀 |
| おおひら | おおひら | おおひら | おおひら | おおひら | おおひら | おおひら | おおひら | おおひら | おおひら | おおひら |
| 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 | 黒磯 |
| 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 | 大田原 |
| ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT | ハンターMT |
| 野木 | 野木 | 野木 | 野木 | 野木 | | | | | | |
| 塩谷 | 塩谷 | 塩谷 | 塩谷 | 塩谷 | | | | | | |
| 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 | 上河内 |
| | | | パフメンバーズ | パフメンバーズ | パフメンバーズ | パフメンバーズ | パフメンバーズ | パフメンバーズ | パフメンバーズ | パフメンバーズ |
| | | | | | | 那須塩原 | 那須塩原 | 那須塩原 | 那須塩原 | 那須塩原 |
| | | | | | | | | | HOKUTO | HOKUTO |
| 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 | 高体連 |
| 25団体 | 25団体 | 25団体 | 26団体 | 26団体 | 24団体 | 24団体 | 23団体 | 23団体 | 24団体 | 24団体 |